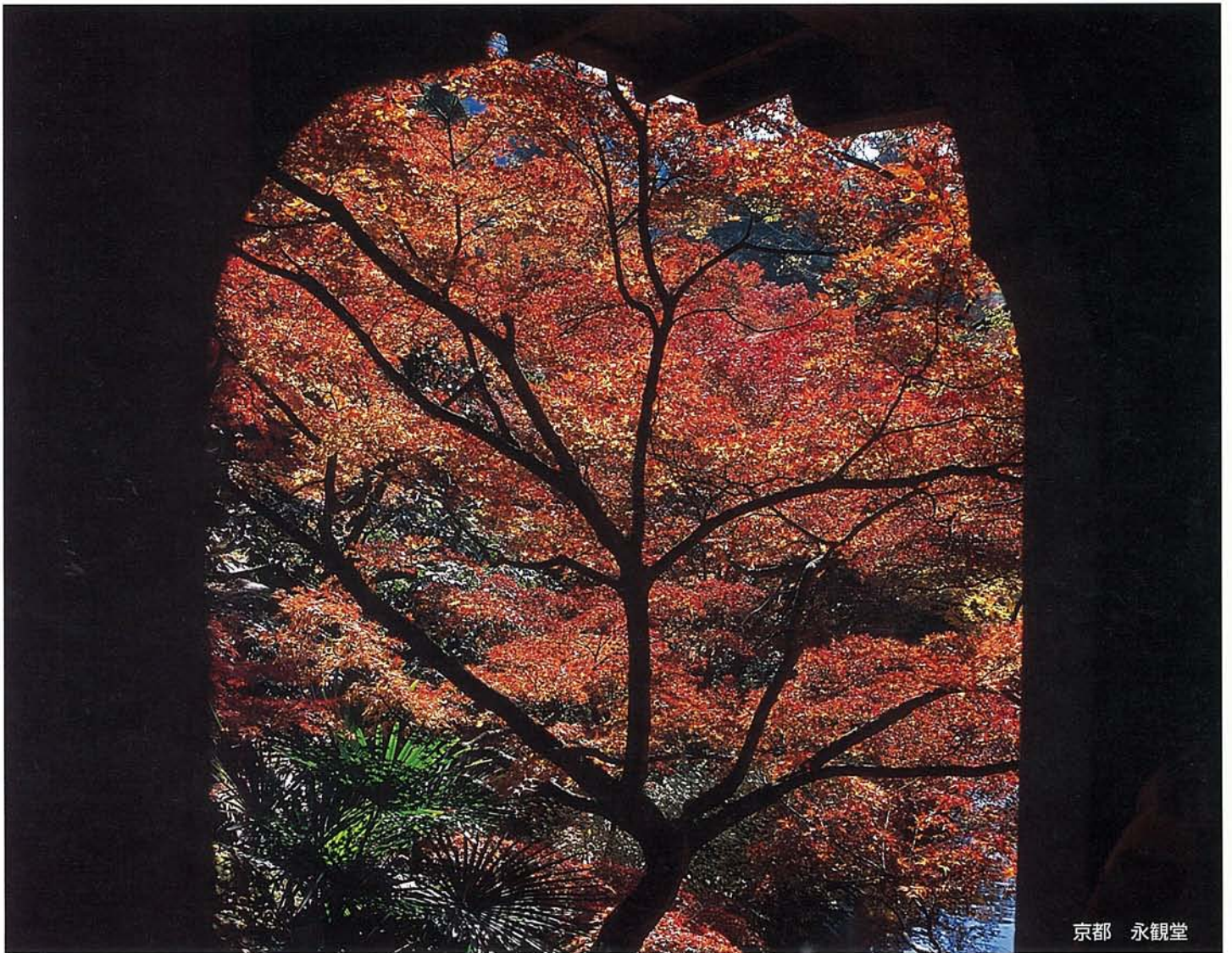


— セント・ルカ産婦人科 —

ルカ新聞

 No.6
 2002.12.


京都 永観堂

向^ひ日^ま葵^{わり}

— ルカによる福音書1章より、

クリスマスにあたって —

へロデ王の時代、祭司のザカリヤとその妻エリザベスは2人とも神の前に正しい人でしたが、エリザベスは不妊でした。ザカリヤが聖所で祭司の勤めをしていたとき、天使が現れ、「あなたの妻エリザベスは子を産む。ヨハネと名づけなさい。」といわれました。ザカリヤは天使の言葉を疑い、「どうして私たちに子が生まれるでしょうか、私たちはもう年をとっていますのに。」と答えました。天使を信じなかったザカリヤはヨハネが生まれるまで口が利けなくなりました。6力月目に今度は天使がナザレのマリヤに現れて「おめでとう、恵まれた方、あなたは身ごもって男の子を生む。イエスと名づけなさい。」と言われ、マリヤは「どうしてそんなことがありましようか、私はまだ男の方を知りませんのに。」と答えました。天使が「聖霊があなたに下る。神にできないことは一つもない。」と云うとマリヤは「私はそれを信じます。」と答えました。これがヨハネとイエスの誕生前の出来事です。神様のご計画は人間の知らぬ次元にあります。あのモーセも、またパウロもまったく普通の人でした。むしろ神様のお言葉が下ったとき、畏れおののき、最初は身を引きました。このエリザベスもマリヤもそのときは他人と比べて特別に優れていたのではありません。しかしいったん神様のお言葉を信じた後は神様に従って大きな働きをなしました。神様のご計画は私たちが考える範囲を超えてまったく思いがけないこともあります。私たちは一つ一つのことについて、これは私にとっでどういう意味なのか、それが今、なすべきことなのか、何が必要なのかなど、真摯に考え、行動しましょう。そして「最後は神様のお考えどおり、きつとうまくいく」ことを信じていることができるようになりたいと思っております。

保険適用国会請願報告

院長 宇津宮 隆史



私たちは不妊症診療をするにあたって不妊症患者さんへのサポートをどうすればよいか、いつも考えてきました。それは大きく分けて3つあります。まず、1番目に医学的なサポートとして、日々勉強し、研究活動を積極的に行い、技術と知識を磨く。そのため毎年10回以上の国内学会、研修会、2-3回の国際学会に参加しています。2番目に患者さんの心のケア、サポートです。これは看護部が中心になってさまざまなプログラムを実行し、中でも「赤ちゃん-今なら授かる-講座」を3ヶ月ごとに、「体外受精講座」を毎月、「体外受精OGとの懇談会」を3ヶ月ごとに、また何でも相談や、妊娠困難者へのサポートなど考えられる限りのサポートを行っています。3番目に経済的なサポートです。不妊症診療は保険適用されていない部分が多いのが事実です。夫の精子を用いる人工授精は100年以上の歴史を持っており、当院でも毎日3-5人がこの治療を受けているほど一般的な治療ですが保険適用されていません。また、今では出生児の1%が体外受精妊娠によるほどになっています。体外受精は多くのプロセスがありますがまったく保険適用部分がありません。通常、体外受精は1回30-50万円かかるといわれています。しかも体外受精を受ける患者さんはそれまでにさまざまな治療を受けている人が多いこと、これしか治療方法はないという最後の手段であること、などから、当院ではなるべく費用を少なくしてあげたいと思っています。そこで当院でははじめの5回までは20万円、6回以上は3割引、11回以上は5割引、16回以上は7割引にしました。これは完全な赤字です。しか

し最後の手段ですから最後まで頑張って欲しいと思います。

そこでさらに公的補助をしてもらえないかを考えました。そしてありがたいことに大分選出の国会議員、釘宮磐先生が相談に乗ってくれました。そこで2002年5月に年間100例以上の体外受精を行っている全国の300施設の不妊クリニックに呼びかけて不妊診療の保険適用の署名運動を行いました。その結果、たった1ヶ月で7,000名以上の署名が集まり、6月に第1回の国会請願を行いました。また、釘宮磐先生も国会で合計4回にわたって厚生大臣や首相に代表質問をしていただき、(その模様は待合室のテレビで流しています。)それは厚生大臣の「何らかの補助を前向きに考える」との発言につながりました。また厚生省の「少子化対策プランプラス1」にたった3行ですが、「不妊治療の充実と支援を検討する」との言葉が入りました。この運動は埼玉の「不妊治療に保険適用を実現する会(代表山口歩さん)」とも連絡をとりながら行っています。

さて、30年の私の不妊症診療経験では初めてそのような前向きの発言が聞かれるようになりましたが、ここで安心してはなりません。すぐ第2弾を考えましょう。そこで12月の国会にむけて今度は全国400施設と150大学医学部に向けて署名運動を呼びかけ2ヶ月間で9,600名あまりの署名が集まり、2002年12月6日に第2回の国会請願を行いました。さらに3回目は来年の2月に計画しています。実現するまで繰り返し請願を行いたいと思っています。皆さんも署名運動に参加してください。

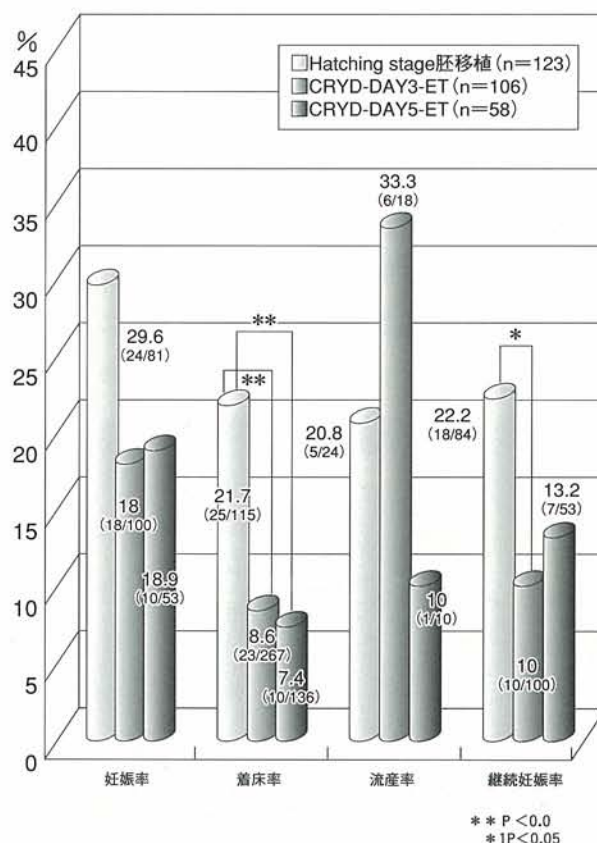
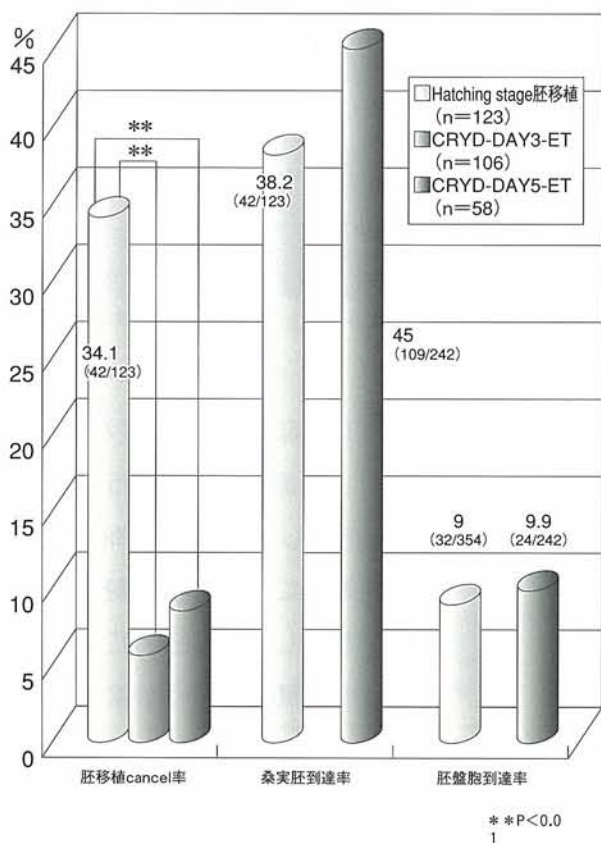
研究室 新聞

第20回 日本受精着床学会参加

2002年10月4日(金)、5日(土)の2日間、岐阜県長良川国際会議場で「第20回日本受精着床学会」が行われました。研究室からは4題発表しました。簡単に紹介します。

●「凍結融解胚移植におけるhatching stage胚移植の臨床成績」 長木 美幸

凍結融解胚移植において、hatching stage (脱出胚盤胞)での胚移植は採卵周期と同様に高い妊娠率が得られました。



●「Implantation windowを考慮したvitrification凍結融解法の検討」 平井 香里

vitrification凍結(後期胚凍結)により、胚発育と子宮内膜成長の同期化に近づけることが可能となり、そのため、着床率、妊娠率が向上することが示唆されました。

●「FISH法を用いた異常受精卵の解析」 佐藤 晶子

異常受精卵の1PN胚をFISH (fluorescence-in-situ hybridization) 解析した結果、前核が29 μm以上のもので胚盤胞期以上に発生した胚は正常2倍体である可能性が高いことが示唆されました。

●「ガラス化凍結Hamster Oocytesはハムスターテストに応用可能か？」 友永 寛

ハムスター未受精卵の新しい凍結法について検討し精子の侵入試験を行った結果、十分保存が可能であり、受精能力が保存されていることが確認されました。

St.Luke ミニセミナー開催

2002年10月6日(日)、生殖医療研究所でセント・ルカ ミニセミナーが行われました。アメリカのSaint Barnabas Medical CenterからHenry E.Malter先生とSantiago Munne先生がおいでになり、先生たちが普段行っている最先端の研究を教えてくださいました。座長は、受精着床学会の会長を勤められた後に当院に来てくださった、名古屋市立大学医学部産科婦人科教授の鈴木薫先生が行っていただきました。また、高度生殖医療技術研究所の荒木康久先生に同時通訳をしていただきました。



Malter先生は、卵子の質が良くない場合、ドナー卵子による細胞質移植を行っているということをお話しされ、Munne先生は、体外受精の移植胚に対する着床前診断についてお話しされました。海の向こうの研究者たちの現場を垣間見た気がしました。私たちがこの先生たちのように、常に向上心をもって仕事をしなければならないと思いました。

セミナーの後、懇親会が行われました。おいしいお料理をいただきながら、Munne先生、Malter先生、その他県外からいらした技師さんと情報交換などができ、楽しい時間を過ごす事ができました。

勉強になりました!



看護部だより

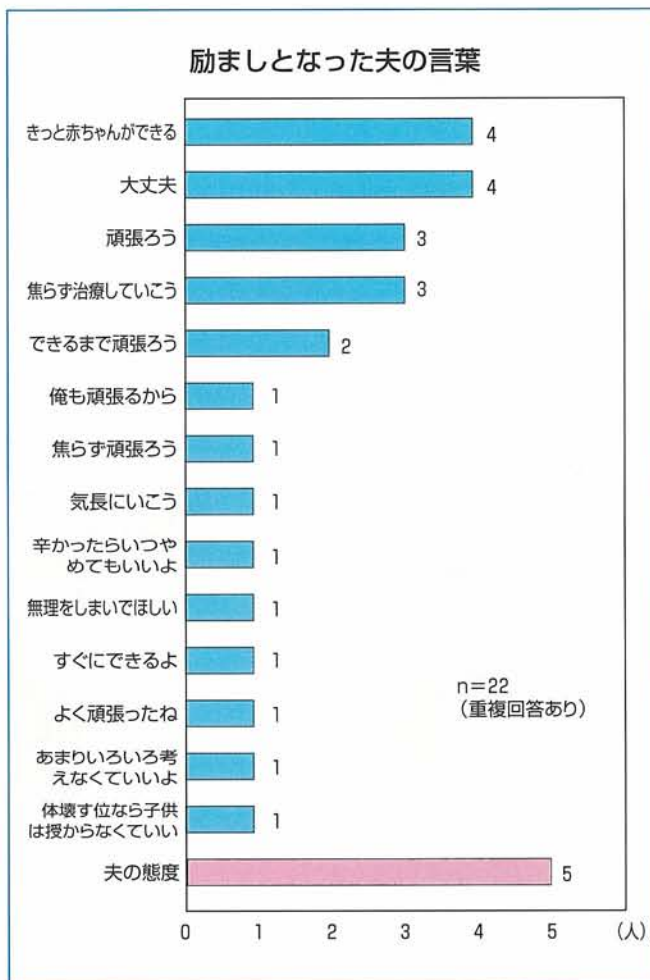
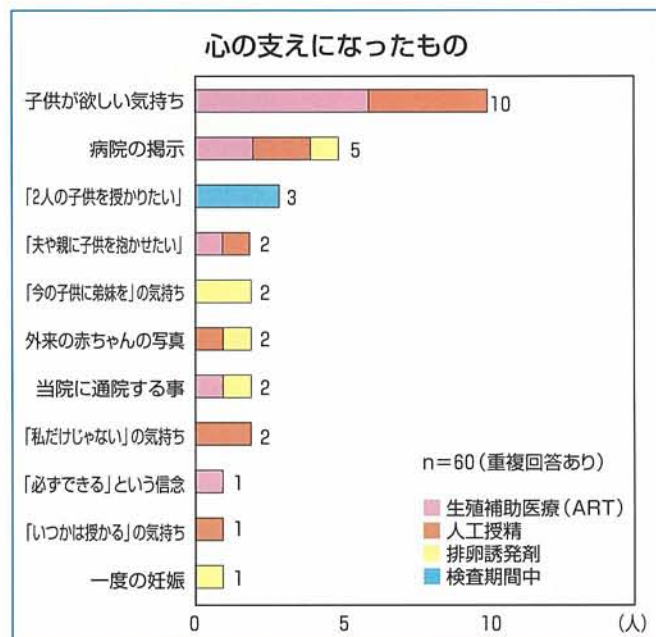
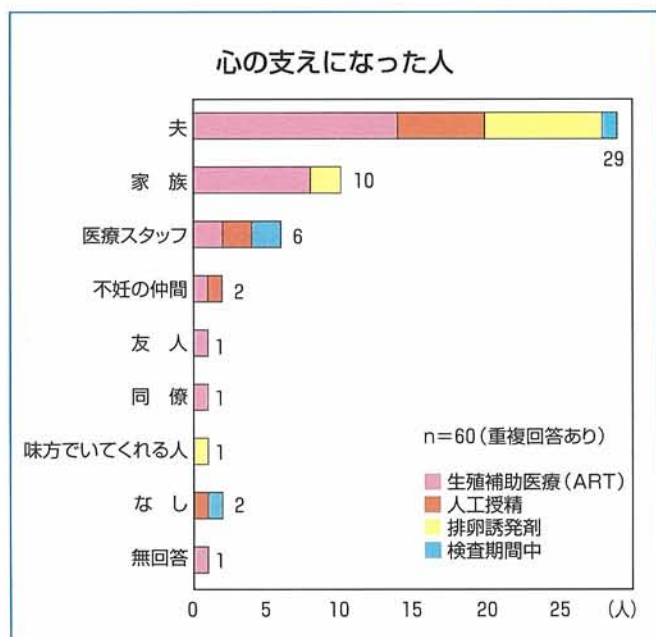
不妊治療で妊娠に至った患者への心の支えに関する検討

看護部 松元恵利子

この度、当院で妊娠に至った方の心の支えや励ましを分析し、今後のサポートに役立てたいと質問紙調査を行ないました。

妊娠に至るまで治療を継続していく上で、一番心の支えや励ましになっているのは夫でした。夫は心の余裕を持って見守る姿勢を持ち、安心でき、いた

わりの感じられる言葉かけや態度を示す事が妻への大きな支えになる事がわかりました。私達医療スタッフは、その事を踏まえ、患者自身のサポートに加え、夫が妻を支える事の重要性やどのように支えていくかを機会ある事に具体的に示していく事が必要であると思いました。



* 相談がある方は、いつでもお気軽に声をかけて下さい。ご主人もご遠慮なくどうぞ！

* 妊娠に至った方から、治療中の方へのメッセージを外来に貼ってありますのでご覧下さい。

* 質問紙調査にいつもご協力頂きありがとうございます。

心理相談室より

最近是不妊治療に関する報道も増え、保健適用への動きも活発になるなど、不妊治療に対する関心も高まってきているようです。これを機に不妊に対する理解も深くなってくれたら…と願わずにはられません。

患者さん方は、不妊であることだけでも大きなストレスを抱えています。それに加え、通院、治療のストレスが加わり、肉体的にも精神的にもとても疲れた状態にあると思われます。例えてみると、心のバケツがいっぱいになりそうな方も多いのではないのでしょうか？「いつもだったらこんなことぐらい平気なのに…」「なんだカライラしてしかたがない」「わかっているのに同じ事ばかり考えてしまう」「すぐに落ち込んでしまう」なんてことはありませんか？そんな時は、心のSOSなのです。知らず知らずバケツがいっぱいになっているのかも。なかなか自分では気づかないのもストレスの特徴なのです。

きついときは、だれかに話しましょう。スタッフでお役にたてることがありましたら遠慮なく声を掛けてください。どんなことでもOKです。外来の相談係、なんでも相談、そして心理相談。健康チェックやストレスチェックもできます。

(同じ治療を受けている人と話してみたい方は、ガーネットサークルやオリーブの会もあります。ご利用ください)



上野 桂子

●● 外来の相談係 ●●
随時

●● なんでも相談 ●●
随時

主に毎週土曜日午後
予約制

●● 心理相談 ●●
毎週火・土の午前中

予約制



NEW職員紹介



江藤 貴美

産婦人科は初めてなので、わからない事が多いですがこれから一生懸命に勉強し、がんばっていきたくて思っていますので、よろしくお祈りします。



越光 直子

産婦人科は、初めての分野なので、毎日が勉強になっており、新鮮に思っています。

これから頑張っていくので、よろしくお祈りします。



田崎 かおり

セント・ルカに入って4ヶ月になり少し慣れてきたかなと思う反面、まだまだ未熟な私です。周りのスタッフに助けてもらいながらマイペースでがんばって行こうと思います。

❀ 受付 より ❀

玄関の花が寒い時期の花へと植え変わり、花がいっぱいになることを願いながら毎日、水やりをしています。花でほっと心が和んでくれれば大変嬉しいのですが…
今回の受付からは、体温表の事と男性の精液検査についてのお願いです。

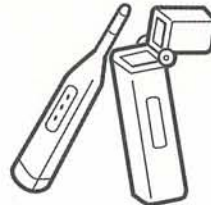
● 体 温 表 [名前・年齢はページが変わるごとに記入してください]

受付では患者さんが来院されましたら、診察カード入れにカードを入れて頂き、順番表を確認しながら本人に体温表をお渡ししています。



☆体温表をお渡ししない方

- すでに注射の指示があり注射で来院されている方
- 至急採血の指示のある方
- 人工授精の方
- 体外受精の方



☆体温表を記入後、受付に戻して頂く方

- 卵管造影の方
 - 手術前検査の方
 - 妊婦検診の方
- } 9:30分までに来院して下さい
- 注射・採血の指示の必要な方
 - 体外受精後の内膜測定の方
 - 体外受精後の尿判定の方

受付で体温表を戻して下さいと言われた時は、
記入後受付にお戻しください。

※上記以外の方は記入後、診察室まで持って入ります。

● 男性精液検査 [要予約]

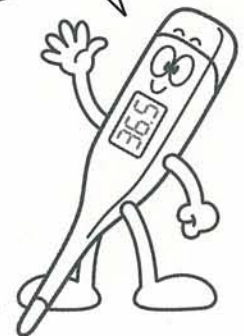
電話での予約は、月・水・金の午後13:30～17:00

☆初診時

受付で保険証提出→問診表記入→研究室窓口へ→終了後、受付会計へ

☆再診時

受付に保険証と診察カードを提出→研究室窓口へ→終了後、受付会計へ



● 精液検査結果 [本人のみ]

- 当日の昼に結果を聞きたい方は、検査の予約時間を9:00までにして下さい。
検査をした後は、会計を済ませます。(結果がでるまで時間がかかります。)
11:50頃にもう一度診察カードを出して下さい 結果が出ているか確認いたします。
- 当日の昼以外に聞く時には、毎日の11:50頃おいでになるか、月・水・金の夕方の診察の予約をして下さい。(時間外料金はかかりません)

※一番最初に受付にいらして下さいその時くわしくご説明いたします。

2002年を振り返って

<p>7.6 第11回赤ちゃんが欲しい講座(大分トキハ会館6F さくらの間) 参加45名 講師(院長、おがた泌尿器科医院 緒方先生) 参加(油布、佐藤順、工藤由、越名、関、河口、品矢、磯崎、指山)</p> <p>7.13 大分職業能力開発促進センター「Access データベースⅠ」 受講(油布、工藤由) 第64回体外受精教室 参加者14名 参加(佐藤順、渡邊、友永、長木、中野、松元、関、磯崎)</p> <p>7.14 日本産婦人科学会大分支部会(大分) 発表(院長) 「当院の成績」 関西テレビ放送取材のため来院</p> <p>7.22 日本産婦人科学会大分支部会 特別講演会(大分) 発表(院長) 「体外受精について」</p> <p>7.27 第9回オリブの会 参加者7名 Reproductive Biology -Tokyo Symposium-(東京) 参加(公文、熊迫、長木、院長)</p>	<p>10.6 セント・ルカミニセミナー(セント・ルカ多目的ホール) 講師 Henry E. Malter 先生(St.Barnabas Medical Center) 講師 Santiago Munne 先生(St.Barnabas Medical Center) 通訳 (高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生) 座長 鈴木 薫 先生(名古屋市立大学 教授)</p> <p>10.7 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>10.9 大分県立大分豊府高等学校 性教育(大分) 講師(院長) 参加(油布、佐藤順、梅田、渡邊、佐藤晶、城戸)</p> <p>10.19 第12回「赤ちゃん ～今ならきつと授かる～」講座 (大分トキハ会館6F さくらの間)参加 50名 講師(院長、おがた泌尿器科医院 緒方先生) 参加(油布、佐藤順、渡邊、城戸、田崎、工藤い、赤嶺、品矢、磯崎、指山、上野)</p> <p>10.26 第67回体外受精教室 参加者 32名 参加(油布、田崎、小濱、磯崎) 第12回オリブの会 参加者 2名</p> <p>10.27 第20回おぎゃー基金推進月間記念講演 参加(斉高、品矢、指山)</p>
<p>8.3 大分職業能力開発促進センター「Access データベースⅡ」 受講(油布、工藤由)</p> <p>8.17 第65回体外受精教室 参加者24名 参加(田崎、小濱、工藤)</p> <p>8.17 第10回オリブの会 参加者2名</p> <p>8.20 「赤ちゃん～今ならきつと授かる」出版</p> <p>8.20 10周年記念誌完成</p> <p>8.24 第9回セント・ルカセミナー懇親会(湯布院)</p> <p>8.25 第9回セント・ルカセミナー(セント・ルカ多目的ホール) 講師 森本 義晴 先生(IVF大阪クリニック) 「ART現場で精液をどう読み切るか?」 講師 田中 温 先生(セントマザー産婦人科医院) 「不妊治療における染色体および遺伝子診断の有用性について」 講師 高橋 克彦 先生(広島HEARTクリニック) 「Convenient IVF ～GnRHアンタゴニストの有用性」 講師 加藤 修 先生(加藤レディースクリニック) 「人生の目的とは ～生殖医療を通じて～」 座長 宮川 勇生 先生(大分医科大学 産科婦人科 教授)</p> <p>8.25 第31回女性心身医学会学術集会(東京) 発表(品矢) 参加(上野)</p> <p>8.26 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>8.30 The 3rd Conference of The Pacific Rim Society for Fertility and Sterility(台湾) 発表(城戸、平井、貴崎) 参加(院長) 「Outcome of ICSI in non-male factor infertility」(城戸京子) 「Transfer of vitrified embryos in consideration of implantation window」(平井香里) 「The influence on couples treated with multifetal pregnancy reduction」(貴崎美奈)</p>	<p>11.1 第16回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会(大分) 参加(油布、佐藤順、梅田、越名、渡邊、佐藤晶、佐藤千、友永、城戸、公文、熊迫、長木、田崎、関、松元、小濱、斉高、貴崎、品矢、磯崎、指山、院長)</p> <p>11.9 第5回IVF研究会(神戸) 参加(佐藤千、公文、熊迫、院長)</p> <p>11.21 第33回大分市医師会医学会(大分) 発表(佐藤晶、平井、松元、斉高) 「FISH法を用いた異常受精卵の解析」(佐藤晶子) 「Implantation Windowを考慮したVitrification凍結融解法の検討」(平井香里) 「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査 一心の支えに関する検討」(松元恵利子) 「不妊症夫婦の治療を通しての夫婦関係の移り変わりについての検討」(斉高美穂)</p> <p>11.30 第68回体外受精教室 第13回オリブの会</p> <p>12.14 全国看護セミナー(宮崎) 参加(柴田、上野)</p> <p>12.21 第69回体外受精教室 第14回オリブの会 セント・ルカ産婦人科 忘年会(トキハ会館) セント・ルカ産婦人科 クリスマス会(セント・ルカ多目的ホール)</p>
<p>著書 〈院長〉「図説 ARTマニュアル」永井書店(共著)</p> <p>論文 〈院長〉「A prospective trial of blastocyst culture and transfer」 Hum.Reprod.(Volume17 Number7 July 2002) 「How many times should we try ART?」 Hum.Reprod.(投稿中) 「The Efficacy of Hatching Stage ET」 Fertil.Steril.(投稿中) 〈城戸京子〉「男性因子以外の不妊原因におけるICSIの有用性」 日本授精着床学会誌(投稿中) 〈平井香里〉「不妊因子別及び加齢によるARTへの影響」 産婦人科の実際 金原出版版(Vol.51 No.2 February,2002)掲載 「新しく開発された培養液HFF99のヒト体外受精への臨床応用」 日本不妊学会誌(投稿中) 「Implantation Windowを考慮したVitrification凍結融解法の検討」 日本授精着床学会誌(投稿中) 〈大津英子〉「Chromosome Analysis of Re-frozen Blastocysts」 Journal of Assisted Reproduction and Genetics(投稿中) 〈熊迫陽子〉「不妊因子が卵管上皮細胞の培養に与える影響」 日本不妊学会誌(投稿中) 〈長本美幸〉「体外受精復無効症例に対するHatching Stage胚移植の試み」 日本不妊学会誌(投稿中) 〈貴崎美奈〉「The influence on couples treated with multifetal pregnancy reduction」 Hum.Reprod.(投稿中) 「不妊症患者に対するサポートのあり方」日本不妊学会誌(投稿中) 「減胎手術の経験が患者夫婦に及ぼす影響」日本不妊学会誌(第47巻 4号)掲載 〈内藤多恵〉「不妊診療における臨床データ管理・統計解析について」 日本不妊学会誌(Vol.47No.1 January,2002)掲載</p>	

編集後記

朝夕ひととき冷え込む季節となりました。一年が過ぎるのも早いもので…ルカ新聞も今回で6回目となりました。私Nは、ルカ新聞に携わってきましたが今回が、最後となりました。原稿依頼から入稿までが長く納品期日までに間に合うだろうか毎回あせりの連続で各部所の皆さんに何回も催促してしまい(特に先生しつこく催促してすみませんでした)…出来上がった新聞を手にとるとほっとします。ご協力ありがとうございました。

次回の新聞係りさん原稿の依頼は早めにね!



〈ウィーン・オペラ座前〉

妊娠報告件数

(2002.6.20~2002.11.30)

体外受精、顕微授精等

58件

*

体外受精以外

72件

計 130件